

ユネスコ評価機関が「登録」勧告



日本酒造りの伝統を守り継ぐ高天酒造の酒蔵

無形文化遺産へ

文化庁は5日、政府が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に再提案していた「伝統的酒造り」について、ユネスコの評価機関が「登録」を勧告したと発表した。12月27日にパラグアイで開催予定の政府間委員会で正式決定される見通し。

阿部俊子文部科学相は5日の閣議後記者会見で、「伝統的酒造りはわが国の大切な文化で、勧告は大変喜ばしいこと。引き続き登録に向け、最善を尽くしていく」と述べた。

「日本酒に世界注目」

諏訪地方からも
喜びや期待の声

「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産への登録勧告を受け、多くの酒蔵がある諏訪地方からも喜びや期待の声が上がった。

県酒造組合会長で宮坂醸造（諏訪市）の宮坂直孝社長は「日本酒への注目が世界各国から集まり、さらなる輸出拡大につながるのではないかと

伝統的酒造りは、こうじ菌を用い、日本酒や焼酎、泡盛などを造る技術。登録されると2022年の「風流踊」以来で、日本の無形文化遺産は23件目となる。

文化庁によると、伝統的酒造りは500年以上前に原型が確立し、日本各地の気候風土に応じて発展。杜氏や蔵人らが製造した酒は、儀式や祭礼行事など日本文化の中で不可欠な役割を果たしているという。

登録件数の多い日本の審査は実質2年に1度で、22年に提案したが審査が見送られ、23年に再提案していた。

文化の継承について録により人々がそ付く風土をより大域を挙げて守り続けるにしたい」と述べた。高天酒造（岡谷・高橋美絵さん（43）ら引き継がれてきた酒造りに携わって、酒造りに携わうれしく思う」とンやビールなどそのにそれぞれの良さと水と米だけで造る日本酒の良さがあ本酒離れ」と言われ者も日本酒の良さにほしい」と話した。